

福岡よか未来プロジェクト 令和6年度採択



福岡未来創造 プラットフォーム

●●レベル別日本語読み物の普及と活用促進を目指した読書会の開催 ●●

プロジェクト活動報告

- 令和5年6月末時点で、福岡県には93,312人の外国人が居住しており、外国人住民の数は年々増加傾向にある（全国第9位，出入国在留管理庁 2023）
- しかし、図書館検索ツール「カーリル」によれば、県内の公共図書館では、日本語学習者向けに開発された段階別日本語読み物の所蔵が十分ではない。
- こうした読み物の存在自体が、図書館司書にあまり知られていない実態が、令和5年度の当事業の調査から明らかとなった。

外国人であっても、日本国民と同様に図書館を利用する公平な権利を有している（日本図書館協会URL）。

読書は、考える力、感じる力、想像する力、表現する力、そして言語知識を育むうえで中核的な活動である（文化庁 2004）

国籍を問わず、誰もが日本語で読書に親しめる機会を整備することが求められる

令和6年度は、福岡県内の複数の公共図書館と日本語ボランティア教室、大学、高等学校において、日本語学習者と母語話者が段階別日本語読み物を用いて読み合い、気に入った書籍を紹介し合う交流活動を展開した。そして、この活動を通して、参加者および図書館・公共施設関係者に対して段階別日本語読み物の存在と有用性を紹介し、図書館における所蔵の意義とその可能性を認識してもらうことを目指した。

メンバー構成

日本語教育学

川邊 理恵
福岡大学 非常勤講師
元福岡女子大学 専任講師

橋本 直幸
福岡女子大学文理学部 准教授

山田 智久
西南学院大学外国語学部 学部長、教授

和田 玉己
九州大学留学生センター他 非常勤講師

池田 隆介
北九州市立大学国際環境工学部 基盤
教育センターひびきの分室 教授

柴田 あづさ(代表者)
九州大学留学生センター 准教授

コレクティブインパクト

日本語教育の専門家と日本語教師、ボランティア教室主宰者、公共図書館分館長、元学校司書、そして、日本語教育環境整備事業アドバイザーがそれぞれの得意分野を生かす形で連携し、公共図書館で企画を実施。コレクティブインパクトとして、こうした連携は全国的にも前例がなく、本事業の実施は日本各地の公共図書館で実施する大学・自治体・産業界のリソース共有にもとづく高等教育の推進に向けた先駆的事例となった。



古田 三志
さくら日本語教室 代表

地域日本語教育・日本語教師

深江 新太郎
NPO多文化プロジェクト 代表

社会的包摂・コミュニティ・デザイン・
地域日本語教育・日本語教育

川元 亜矢
福岡市東図書館 分館長

図書館司書

米田 留美
NILS Annex 他 非常勤講師
元学校司書

学校司書・日本語教師

松永 典子
九州大学大学院比較社会文化研究院
社会情報部門 教授

多文化共生教育論・日本語教育学

福島未来創造
プラットフォーム

[illegible]

共催

福岡市総合図書館 様
福岡市東図書館 様
古賀市 様
後援
福岡市 様
苅田町 様
(公財)福岡県国際交流センター 様
九州国際学生支援協会 様
NPO福岡国際市民協会 様
九州日本語教育連絡協議会 様
広報等
福岡大学社会連携センター事務局 様
よかたい図書館共同事業体 様
日本語教育学会 様
(有)大谷書店 様

日本語教育学会 2024年度第1回支部集会(九州・沖縄支部)において、当事業の成果と課題についてポスター発表を行うとともに、交流広場では日本語読書会の紹介とレール別日本語読み物の展示を実施しました。
(2024年7月20日)

振り返り・閉会の辞

日本語学習者のコメント

Q1: どうして「にほんご読書会」に参加しましたか？

1. 日本語の読解力・語学力の向上のため

- ・日本語の本をどのくらい読めるか試したい
- ・日本語の本を読みたい
- ・読解力を向上させたい
- ・日本語を練習・上達させたい
- ・日本語や日本文化への理解を深めたい

2. 読書・本そのものへの関心

- ・本が好きなので参加した
- ・さまざまな本と出会えるのが嬉しい
- ・本を通して学べるのがよい

3. 人との交流や友人づくり

- ・地元の人、日本人と会話・交流したい
- ・他の読書好きの人とつながりたい
- ・留学生・在住外国人との交流の場として魅力を感じた

4. 図書館やその活動に関心

- ・図書館について研究している
- ・日本の図書館が外国人にとってどういう場所かに興味がある
- ・公民館の日本語教室で紹介され、関心を持った

5. 雰囲気や内容に対する期待

- ・イベントが面白そうだった
- ・楽しく学べそうだった
- ・読書を通じて新しい発見ができそうだった

Q2: 「にほんご読書会」はどうでしたか？

1. 全体的な満足・肯定的な評価

- ・とても楽しかった(多数)
- ・また参加したい(多数)
- ・いい活動だった
- ・よい体験になった
- ・漢字や日本語の勉強が「楽しい」と感じられた
- ・また開催してほしい(多数)
- ・もっと頻繁に行ってほしい(多数)

2. 日本語学習への効果

- ・読解力や漢字力、語彙の向上につながった
- ・実用的な日本語の学習機会として有意義であった
- ・読書後のブックトークがスピーキングの練習にもなった
- ・日本語学習のモチベーションの向上や継続意欲につながった

3. 読書・図書への関心

- ・やさしい本から難しい本までさまざまな本に触れられた
- ・読書を通じて新しい表現や文化に触れられた
- ・本が好きだから参加した。多くの本と出会えた

4. 交流機会としての価値

- ・他の地域や文化背景を持つ参加者と意見交換ができてよかった
- ・地域の日本人との交流やつながりの機会を持ててよかった

5. 運営・進行への評価

- ・読書会の進行が分かりやすくスムーズだった
- ・用意された本の分量や内容がちょうどよく、負担なく楽しめた

6. 改善点・今後への要望

- ・時間が短く感じた
- ・読むときの椅子の配置は半円形の方がよい

日本語母語話者のコメント

Q1: どうして「にほんご読書会」に参加しましたか？

1. 読書・本への関心からの参加

- ・本を読むのが好きだから
- ・最近本を読んでいなかったので参加した
- ・どんな本があるのか知りたかった
- ・偏った本ばかり読んでいたので視野を広げたかった
- ・レベル別の書籍で多読を実践し、日本語力向上を図りたかった
- ・読書が好きで、同じ興味を持つ人と楽しめる場だと思った
- ・娘も本が好きなので親子で参加した

2. 日本語教育や学習支援に関心のある立場からの参加

- ・日本語教室のボランティアスタッフとして参加
- ・日本語学習のサポーターとして参考になることを得たいと思った
- ・日本語教育と読書会がどのように融合するのかに興味があった
- ・日本語教室での学習者対応に役立てたい
- ・外国籍の人たちがどのような本に関心を持っているのか知りたかった
- ・多読授業経験があり、今回の活動に興味を持った

3. 交流や多文化理解への関心からの参加

- ・外国籍の人とコミュニケーションをとりたと思った
- ・異文化交流の機会として有意義だと感じた
- ・留学希望の娘に海外の人との交流の機会を与えたかった
- ・日本語を学ぶ方々と交流したいと思った

4. 図書館・地域活動への関心やきっかけによる参加

- ・館長の声かけで興味を持った
- ・活動している日本語教室で企画されたため参加
- ・過去に姪浜・はなみきスクエアでの参加経験があり、他会場でも参加したかった
- ・事業メンバーの先生に誘われた
- ・総合図書館に普段から通っており、参加しやすかった
- ・多文化共生シンポジウムでチラシを受け取った

5. その他の参加理由

- ・面白そうだったから
- ・興味深かったから
- ・穏やかな時間を過ごせそうだったから
- ・我が子の世界が少し広がってほしいという期待から

Q2: 「にほんご読書会」はどうでしたか？

1. 全体的な評価・印象

- ・とても素敵な取り組み
- ・素晴らしい企画
- ・貴重な体験
- ・本を通じて多文化交流ができた
- ・久しぶりに集中して本を読めた
- ・リラックスできた

2. 学習効果・教材に関する意見

- ・多読形式がよかった（日本語教育関係者）
- ・さまざまなレベルに対応した本が用意されていてよかった（日本語教育関係者）
- ・教科書以外の本を読む経験は学習者にとって貴重（日本語教育関係者）
- ・教室での活動に広がりをもてる（日本語教育関係者）
- ・教材選びの参考になった（日本語教育関係者）

3. 書籍・内容に対する感想・要望

- ・レベルに合った面白い本が多く、手に取りやすかった（日本語教育関係者）
- ・絵本の内容について初級者には理解が難しい（日本語教育関係者）
- ・もっと明るくわかりやすい本があるとよい
- ・ハードカバーや図鑑・料理本などの多様なジャンルがあるとよい
- ・書籍の貸出や一括貸与の仕組みがあると教室でも活用しやすい（日本語教育関係者）

4. 交流・社会的意義に関する意見

- ・外国人と日本人が交流できる貴重な機会
- ・外国籍の方が日本の本や文化に親しめる場
- ・社会的包摂の場としての可能性がある
- ・外国の本も準備すれば、多様性の理解促進につながる

5. 運営や形式に関する提案・改善点

- ・読書後の意見交換の時間が短かった（多数）
- ・開き読みの本はやや大人向けでもよい
- ・開き読みはスクリーンに投影して見やすくしてほしい
- ・本を選ぶのが難しかった
- ・読み切れなかった
- ・継続して開催してほしい／月1回程度の開催を
- ・E-mail登録で学習者に次回案内をして友達を連れて来てもらうのはいかがでしょうか

成果

- 福岡県内の多くの日本語学習者、母語話者、日本語教育関係者、図書館および自治体関係者に対し、レベル別日本語読み物を紹介・普及できた。
- 当事業は、日本語教育分野において広く認知される活動へと成長した。
- 成果の一例として、以下の反響があった：
 - ・西日本新聞社および毎日新聞社から取材を受け、当事業が記事として紹介された。
 - ・カナダ・トロント国際交流基金より、読書会の開催手法に関する問い合わせを受けた。

今後の予定

- 令和7年度は、福岡県での取り組みに続き、公共図書館における日本語学習者の読書環境整備が十分に進んでいない佐賀・大分・長崎・熊本の4県においても、同様の形態で日本語読書会を展開する予定である。本活動は、公益社団法人日本語教育学会「2025年度宮地裕基金 人材育成研修講座」の助成を受けて実施されることが決定しており、これを通じて、参加者および公共図書館や自治体関係者に対し、日本語学習者向け読み物の有用性への理解を促進するとともに、公共図書館での資料所蔵の意義とその可能性を広く共有することを目的としている。
- 令和7年度の締めくくりとして、2026年2月に福岡市内でシンポジウムを開催する予定である。当日は、当事業の過去3年間にわたる活動成果を報告するとともに、九州地域の公共図書館における日本語学習者支援のあり方について、日本語教員の役割に焦点を当てた基調講演およびパネルディスカッションを通じて、今後の展望と課題を参加者間で共有・検討する場としたい。

今後の活動につきましては、当事業のFacebookページにて随時ご案内いたしますので、ぜひご確認ください。